

令和 6 年 5 月 13 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00054

研究課題名(和文)南アジア密教のヨーギニー思想の展開 カンバラ作『成就法の大海』原典研究

研究課題名(英文)Development of the Idea on Yoginis in Esoteric Buddhism in South Asia: A Critical Study of the Sanskrit Manuscripts of Kambala' S&#257;dhananidhi

研究代表者

杉木 恒彦 (Sugiki, Tsunehiko)

広島大学・人間社会科学研究科(総)・教授

研究者番号：40422349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、インド大乘仏教のうち後期密教の論書であるカンバラ(Kambala)作『成就法の宝庫』(Sadhananidhi：10世紀後半頃編纂)の第1～3、15～24、26～27、29、33、35～36、38～39、41～42章(合計23の章)の世界初の梵語校訂テキストと英語訳注を完成し、それらの章が説く内容すなわちヨーギニー(Yogini)論等を分析することを目的とする。研究は順調に進み、これら合計23の章だけでなく、全ての章(計51章)の梵語校訂テキストと英語訳注あるいはそれらのドラフト(仮校訂テキストと仮英語訳注)を作成することができた。その成果を5本の論文と単著の一部として刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

世界初の『成就法の宝庫』の諸章の梵語校訂テキストと英語訳注を刊行することは、基礎研究として有意義であることは言うまでもない。さらに、同書の諸章は仏教内外の諸文献と共通の韻・散文を多く含んでいるので、それらの梵語校訂テキストと訳注は、他文献の解説を行ううえでも有益な資料となる。さらに、それらの章が扱う広範囲のヨーギニー論などの思想分析は、シヴァ教と仏教の影響関係の中で、後期密教がどのような仏教独自のヨーギニー論の体系を構築し展開させていったかを明らかにする一歩となる。

研究成果の概要(英文)：The Sadhananidhi ("Storehouse of Sadhanas") is a treatise of Tantric Buddhism compiled in the late 10th century in east India, and its authorship is attributed to Kambala. The purpose of this study is to complete the world's first critical edition and translation of the Sanskrit text of its chapters 1-3, 15-24, 26-27, 29, 33, 35-36, 38-39, 41-42 (a total of 23 chapters), and to clarify what these chapters teach, namely the theories on Yoginis, etc. The research progressed smoothly, and I was able to complete Sanskrit edition and translation (or draft edition and translation) of not only the 23 chapters but also all chapters (51 chapters in total). Some of the results were published as part of five articles and a monograph in English.

研究分野：インド・ネパール密教

キーワード：インド密教 サダナニディ カンバラ ヨーギニー インド仏教

1. 研究開始当初の背景

本研究課題の主題材は、その奥書によればカンバラ (Kambala) を著者とするインド後期密教論書『成就法の宝庫』(Sādhanaidhi) である。サンヴァラ系密教の最古のタントラ『チャクラサンヴァラ・タントラ』(Cakrasaṃvaratantra) の注釈であり、その編纂は10世紀後半と考えられるが、11世紀始め頃の編纂の可能性も否定できない。

2012年以前では、『成就法の宝庫』のサンスクリット語(以下、梵語)写本は、2本(NGMPP B31/20とE2990/15)の現存が知られていた。いずれも古ネパール文字による貝葉写本であり、おそらく13~15世紀のネパールでの書写と思われるが、完本ではない。前者は全51章のうち51章の大部分が書けており、後者は2葉のみの断片である。だが、2012年以降、『成就法の宝庫』の別の梵語写本1点の現存(Goettingen Xc 14/30=Xc 14/51)が新たに確認された。この写本は12世紀頃の高ベンガル文字による貝葉写本であり、おそらく書写地はベンガル地方であり、完本である。これにより、完本を含む3本の比較的古い梵語写本を用いた校訂研究ができる状況になった。

研究代表者は、2012年度以降連続する2つの科研費プロジェクト(24520055と17K02216)を通して、『成就法の宝庫』の第4章から第8章までの梵語校訂テキスト・英語訳注と思想分析を刊行した。本研究はこれに続くものであった。本研究が目的とする『成就法の宝庫』の合計23の章の原典研究・思想研究は、国内外において本研究が初となる。

2. 研究の目的

本研究は、インド後期密教の論書であるカンバラ作『成就法の宝庫』の第1~3、15~24、26~27、29、33、35~36、38~39、41~42章(合計23の章)の世界初の梵語校訂テキストと英語訳注と、それらの章が説く内容——ヨーギニー(Yoginī)論など——を分析する思想研究論文を完成させることを目的とする。その成果は公開性ある学術媒体を通して国内外に提供される。研究期間中に全て刊行することは量的に困難なので、成果刊行は研究期間終了後も引き続き行われる。

本研究の意義は以下の通りである。サンヴァラ系密教はおよそ9世紀後半頃に東インドに誕生し、多数のタントラ(聖典)と論書等を生み出した。現在のネパール(カトマンドゥ)でもその伝統は生きている。その最古のタントラである『チャクラサンヴァラ・タントラ』には多くの注釈書が作られたが、それらのうち、10世紀までに編纂された古いもので、かつ梵語写本が現存しているものは(『成就法の宝庫』を含めて)3本である。そのうち2本はすでに全体の梵語校訂テキストが刊行されているが、『成就法の宝庫』は未刊行である。本研究により、それら3本の古い注釈書の梵語校訂テキストが全て揃い、その内容が明らかになる道が開ける。

さらに、本研究が主目的とする『成就法の宝庫』の計23の章は、仏教内外の諸文献と共通の韻・散文を多く含んでいる。それゆえ、それらの梵語校訂テキストと訳注は、他文献の解説を行う際に有益な一次資料となる。

また、一般論として、梵語校訂テキストは研究者の方々がそれらの文献の一次資料として各自の研究に使用できるものであり、英語訳注は研究者と一般の方々がそれらの文献の内容を知る手助けになるものである。このように本研究は、英語訳注を通して、専門外だが英語を読み関心のある国内外の方々にも『成就法の宝庫』の内容を知る機会を提供するものである。

3. 研究の方法

上述の3本の貝葉写本、すなわち①NGMPP B31/20と②NGMPP E2990/15と③Goettingen Xc 14/30=Xc 14/51を用いて、『成就法の宝庫』の計23の章の梵語校訂テキストと英語訳注を作成する。同書のチベット語訳も参照する。

その他、仏教内の主要な関連文献として、『チャクラサンヴァラ・タントラ』の他に、『アビダーノータラ・タントラ』(Abhidhānottaratantra)の第38~46章、『サンプタ・タントラ』(Sampūṭatantra)の第6章、『ダーカールナヴァ・タントラ』(Dākārṇavatāntra)の第26~37章、ラトナーカラシャーンティ(Ratnākaraśānti)作『功德あるもの』(Guṇavati)と『真珠の環』(Muktāvalī)、アバヤーカラグプタ(Abhayākaragupta)作『伝承の花房』(Āmnāyamañjarī)などを参照する。仏教外の主要な関連文献として、『ブラフマ・ヤーマラ』(Brahmayāmala)の第87~88章など、サンヴァラ系との関連がAlexis Sanderson名誉教授("The Śaiva Age: The Rise and Dominance of Śaivism during the Early Medieval Period." In *Genesis and Development of Tantrism*, edited by Shingo Einoo, pp. 41-349. Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, 2009, 等)により指摘されているシヴァ教ヴィディヤーピータ(Vidyāpīṭha)系の諸文献を参照する。

以上に述べた『アビダーノータラ・タントラ』などの関連文献と共通・類似する偈頌と散文

を逐一確認しながら、文脈の相違も考慮しつつ、『成就法の宝庫』の文1つ1つを丁寧に校訂し、英語訳注を施していく。この過程で、連携する研究者の方々に校訂テキストや英語訳注を見てもらい、意見をもらう。こうした校訂作業を前提に、内容の精緻な思想分析を行う。思想分析は、上述関連文献群を用いながら、仏教内外の思想史の流れをふまえたものとする。

4. 研究成果

本研究の主目的の1つは『成就法の宝庫』の諸章の梵語校訂テキストと英語訳注を完成し、公開性ある学術誌に刊行していくことである。これら校訂テキストと訳注をここで再現することは、すでにその一部を公開性のある学術誌に刊行しているため無意味であり、そもそも分量の問題から不可能である。それゆえ、以下、それら諸章の内容をいくつか簡潔にまとめることにより、研究成果の紹介としたい。なお、『成就法の宝庫』の各章は、『チャクラサンヴァアラ・タントラ』の各章の注釈になっている。たとえば『成就法の宝庫』第1章は、『チャクラサンヴァアラ・タントラ』第1章の注釈である。

『成就法の宝庫』第1章は『チャクラサンヴァアラ・タントラ』第1章の各単語の語釈を行いながら、多くのトピックを扱っている。主なトピックは(1) *saṃvara* の語源学 (*saṃvṛṇoti = sarvaṃ gr̥hṇāti / saṃkṣepa / sukhavara / saṃtṛpta / saṃvṛta*)、(2) 冒頭に *evaṃ mayā śrutam ekasmin samaye* が記されていない理由、(3) 「タントラ」の意味(連続)と3種類のタントラ(原因のタントラ、方法のタントラ、結果のタントラ)、(4) *dākinī* の語源学(「神通力により無数の身体で同時に一切に行き渡る女」)、(5) *rahasye paramē ramie sarvātmani sadā sthitaḥ* という偈の4種類の秘密の意味、(6) *bhagavat* の語源学(主権など6つの「属性をもつ者」、「4人のマーラを破壊する者」)、(7) 3種類の女性の型と5種類の女性の型、(8) 6つの季節の意味、(9) 俗なる物質を甘露へと変えるマントラ、である。

第2章は、語釈をしながら、八大尸林と、甲冑としての六部族の主とその妃の観想の詳細を説いている。

第3章の内容は基本的に語釈のみだが、灌頂儀礼(入門儀礼)を説明する偈頌の語釈であるため、本書の観点からのその詳細を知ることができる。

第15章の内容は簡潔な語釈のみである。

第16章では、『チャクラサンヴァアラ・タントラ』が述べる7人のヨーギニーを(1) 毘盧遮那(*Vairocana*) 仏のブラーフマニー(*Brāhmaṇī*)、(2) 宝生(*Ratnasambhava*) 仏のチャンダーリー(*Caṇḍālī*)、(3) 阿弥陀(*Amitābha*) 仏のナティー(*Naṭī*)、(4) 不空成就(*Amoghavajra*) 仏のラジャキー(*Rajakī*)、(5) アシュク(*Akṣobya*) 仏のドーンビー(*Ḍombī*)、(6) ヴァジュラサットヴァ(*Vajrasattva*) のクシャトリニー(*Kṣatriṇī*)、(7) ヘールカ(*Heruka*) のシュードリー(*Śūdrī*) であると解説する。いずれのヨーギニーもカースト名をその名前としている。

第17章は、様々なヨーギニーとその曼荼羅を説く。まず五甘露とは五大(地・水・火・風)であるとし、それらを象徴する(1) 四面八臂の勇者とその妃、(2) ルーピニー(*Rūpiṇī*)、(3) ヨーギニー(*Yoginī*)、(4) ラーマー(*Lāmā*)、(5) カンダローハー(*Khaṇḍarohā*) と、四門と四隅の(1) ヤーミニー(*Yāminī*)、(2) トラーサニー(*Trāsānī*)、(3) カーミニー(*Kāminī*)、(4) ビーマー(*Bhīmā*)、(5) サンチャーラー(*Samcārā*)、(6) バースラー(*Bhāsūrā*)、(7) アユルバクシニー(*Āyurbhakṣiṇī*)、(8) ヴァーラーヒー(*Vārāhī*) より成る曼荼羅を説く。続いて、以下の別の曼荼羅を説く。中央の輪には(1) 四面八臂のヘールカ(*Heruka*、中央)、(2) ヴァジュラサットヴァ(*Vajrasattva*、東)、(3) 毘盧遮那(*Vairocana*、南)、(4) アモガラージャ(*Amogharāja*、西)、(5) パドマナルタカ(*Padmanartaka*、北)が、その周囲を(1) ルーピカー(*Rūpikā*)、(2) チュンビカー(*Cumbikā*)、(3) ラーマー(*Lāmā*)、(4) パラーヴリター(*Parāvṛttā*)、(5) サバーリカー(*Sabalīkā*)、(6) アニヴィリティキー(*Anivṛtikī*)、(7) アイヒキー(*Aihikī*)、(8) ヴァジュラナルテシュヴァリー(*Vajranarteśvarī*) という8人のヨーギニーが囲む。あるいはこれら8人のヨーギニーの代わりに、三輪(心輪、語輪、身輪)の計24人のヨーギニーたちが囲む。それら心輪のヨーギニーたちは(1) シャンキニー(*Śaṅkhinī*)、(2) プッカシー(*Pukkāsī*)、(3) マーラーニー(*Māraṇī*)、(4) ガウリー(*Gaurī*)、(5) ポータニー(*Phoṭānī*)、(6) チャンダーリー(*Caṇḍālī*)、(7) シャバリー(*Śabarī*)、(8) ターラーニー(*Tāraṇī*)、語輪のヨーギニーたちは(9) ブリクティー(*Bhrkuṭī*)、(10) トライオーキャヴィジャヤー(*Trailokyavijayā*)、(11) ダンティニー(*Dantiṇī*)、(12) ガスマリー(*Ghasmarī*)、(13) マハーナーサー(*Mahānāsā*)、(14) ゴームキー(*Gomukhī*)、(15) ビダーリー(*Biḍālī*)、(16) ハステイジフヴァー(*Hastijihvā*)、身輪のヨーギニーたちは(17) ゴーカルニー(*Gokarnī*)、(18) スムキー(*Sumukhī*)、(19) ラクタチャンディー(*Raktacandī*)、(20) シュヤーマダンティー(*Śyāmadanti*)、(21) マハーバラー(*Mahābalā*)、(22) ヨージャナガンダー(*Yojanagandhā*)、(23) ルクミニー(*Rukmiṇī*)、(24) サティヤヤーマー(*Satyavāmā*) である。曼荼羅の四門には(1) ドウルガー(*Durgā*)、(2) チャームンディー(*Cāmuṇḍī*)、(3) ブラフマニー(*Brahmānī*)、(4) ヴァイシュナヴィー(*Vaiṣṇavī*) という4人のヨーギニーたちがいる。続いて、8種類のヨーギニーの特徴が説明される。それら8種類とは(1) パドミニー(*Padmini*)、(2) ハステイニー(*Hastini*)、(3) シャンキニー(*Śaṅkhinī*)、(4) チトリニー(*Citriṇī*)、(5) ヴァダヴァー(*Vaḍavā*)、(6) ピーラヴィー(*Pīlavī*)、(7) キーラーキー(*Kīlakī*)、(8) ムリギー(*Mṛgī*) である。

第18章～24章および26章の内容は語釈のみである。

第 27 章は語釈をしながら、以下の曼荼羅を説く。八花卉蓮華の中央に (1) 四面十二臂の勇者とその妃ヴァーラーヒー (Vārāhī)、八花卉に東から (2) マータンギー (Mātāṅgī)、(3) ドーンビー (Ḍombī)、(4) ラジャキー (Rajakī)、(5) プッカシー (Pukkasī)、(6) カッティカー (Khattikā)、(7) シャーバリー (Śābarī)、(8) ディーヴァリー (Dhīvarī)、(9) シャバリー (Śabarī) がいる。四門に (1) ヘルカーパー (Herukābhā)、(2) ヴァジュラチャンディー (Vajracandī)、(3) ヴァジュララークシャシー (Vajrarākṣasī)、(4) ヴァジュラバイラヴィー (Vajrabhairavī) がいる。さらに、十二頭陀行をその清らかな性質とする (十二頭陀行をその名とする) 12 人のヨーギニーたちが説かれる。すなわち、(1) Painḍapātikā (乞食する)、(2) Tricīvarikā (3 つの上衣)、(3) Khalupaścādbhaktikā (「午後に食事をしない」)、(4) Naiṣadyikā (「横になって寝ない」)、(5) Yāthāsaṃstarikā (与えられた座席はどのようなものでも受け取る)、(6) Abhyavakāśikā (「空き地に住む」)、(7) Vṛkṣamūlikā (「木の根元で生活する」)、(8) Araṇyavāsikā (「森林にすむ」)、(9) Śmaśānikā (「戸林に住む」)、(10) Pāṃśukūlikā (「ぼろをまとう」)、(11) Nāmatikā (「羊毛をまとう」)、(12) Ekāsanikā (「一つの坐のみもつ」) である。その他、本章は『ヴァジュラダーカ・タントラ』第 19 章との大規模な平行文を含むなど、興味深い点がある。

第 29 章はタントラの本文を大いに拡大解釈して 9 種類のヨーギニーの特徴を詳しく説明する。それらのヨーギニーには特定の名前が付されていない。

第 33 章、第 35 章から 36 章、第 38 章から 39 章、第 41 章から 42 章はタントラのおおむね詳細な語釈となっている。

上述のように本研究計画が対象とするのはこれら合計 23 の章であるが、研究が順調に進んだため、『成就法の宝庫』の全ての章 (計 51 章) の梵語校訂テキストと英語訳注あるいはそれらのドラフト (仮校訂テキストと仮英語訳注) を作成することができた。その成果の一部は、研究期間内に 5 本の論文と単著の一部として刊行しており、残りの成果を今後刊行していく予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Sugiki, Tsunehiko	4. 巻 1
2. 論文標題 On the Chronology of the Buddhist Tantras	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Oxford Handbook of Tantric Studies (edited by Richard K. Payne and Glen Hayes)	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oxfordhb/9780197549889.013.32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiki, Tsunehiko	4. 巻 15
2. 論文標題 Texts of the Yoga of the Donkey-Shaped (Gardabhakarayoga) and the Seven-Birth (Saptajanman) from the Buddhist Yoginitantras: A Sanskrit Edition and Translation of Sadhananidhi 11, 14, and 49, Vajradaka 35, Mahamudratilaka 24, and Dakarnava 50.2.1-14	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 早稲田大学高等研究所紀要	6. 最初と最後の頁 5-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 杉木恒彦	4. 巻 71-2
2. 論文標題 驢馬の容貌の女神たちのヨーガ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 150-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sugiki, Tsunehiko	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 Tantric Appearances and Non-Tantric Meanings: Four Systems of the "Mandala of Mantra" in the Buddhist Cakrasamvara Literature	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Buddhist Thought and Culture	6. 最初と最後の頁 217-255
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.16893/IJBTC.2021.06.30.1.217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiki, Tsunehiko	4. 巻 17
2. 論文標題 The Structure and Meanings of the Heruka Mandala in the Buddhist Dakarnava Scriptural Tradition.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the 17th World Sanskrit Conference	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sugiki, Tsunehiko	4. 巻 11(10), 530
2. 論文標題 Warriors Who Do Not Kill in War: A Buddhist Interpretation of the Warrior's Role in Relation to the Precept against Killing.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Religions (Special Issue: Religious Representations in and around War)	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/rel11100530	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 杉木恒彦
2. 発表標題 密教経典の成立史――近年の国内外の研究成果を総括する――
3. 学会等名 日本密教学会第55回学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sugiki, Tsunehiko
2. 発表標題 A Final Form of Buddhist Classification of Yoginis
3. 学会等名 World Sanskrit Conference 18 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sugiki, Tsunehiko
2. 発表標題 Psychophysiology of the Samvara Literature
3. 学会等名 Genesis and Formation of Newar Buddhism (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Sugiki, Tsunehiko	4. 発行年 2022年
2. 出版社 MDPI	5. 総ページ数 420
3. 書名 The Ocean of Heroes: Critical Edition, Translation, and Analysis of the Dakarnava, Chapter 15, and Jayasena's Meditation Manual	

1. 著者名 島園進、奥山倫明、伊達聖伸、氣多雅子、石川明人、嶺崎寛子、杉木恒彦、富澤かな、鈴木健郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 315
3. 書名 いまを生きるための宗教学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関